

子どもたちが安心して学校に通うために少人数学級の実現を求める意見書

新型コロナウイルス感染拡大防止のための一斉休校は「友達と会いたい」「いつになったら学校が始まるのか」と子どもたちの不安をもたらしました。学校再開の移行段階で「3密」を避けるために分散登校や少人数での授業が行われました。

少人数で授業を受けた子どもたちからは「いつもより勉強がよくわかった」などの声が聞こえ、教職員も「ゆとりをもって子どもたちと丁寧にかかわることが出来た」など分散登校での20人以下学級の良さを実感しています。こうした状況のなか少人数学級を求める声は大きなうねりとなり、全国の約600自治体で少人数学級を求める意見書が可決され、そして少人数学級を求める人たちの輪は教育研究者、地方3団体、校長会、教育委員会、PTAなどへかつてなく広がっています。

子どもたち一人ひとりが、のびのびと成長し学びあうことを可能にする少人数学級の実施は、今や国民的課題です。

国及び政府におきましては、国民の声に応え、子どもたちに、学びと育ちを保障し、安心安全な教育環境をつくるために、法改正により少人数学級を早期に実現することを強く求めます。

記

- 1 小学校・中学校の全学年を少人数学級にしてください。
- 2 少人数学級にするために早急に正規の教職員増と教室確保を国の責任で行ってください。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

内閣総理大臣 様
財務大臣 様
文部科学大臣 様

令和3年3月19日

福岡県糸島市議会